

広島大学文書館第2回研究集会  
「大学アーカイブズの実務」趣意書

平成30年9月28日

広島大学文書館

館長 小池 聖一

全国大学史資料協議会編による『日本の大学アーカイブズ』（京都大学学術出版会、2005年）が刊行されて12年が経過いたしました。その後、公文書管理法が制定・施行されて国立大学にアーカイブズができはじめ、私立大学では大学資料の収集・公開、展示・広報と、新しい試みが数多く展開しております。

しかし、実際、国立大学では法人化に伴う諸状況の変化により、大学アーカイブズの設置は思うほど進まず、また、経費削減の対象ともなっています。同様に、私立大学においても、必ずしも、大学アーカイブズが正しく認知されているとは限らないのではないのでしょうか。このような現状を打破し、これからの大学アーカイブズの地平を新たに開拓しなければならないと考えております。

本研究集会「大学アーカイブズの実務」は、大学史資料協議会でなされた多くの事例報告を一つの基礎としながら、大学アーカイブズの発展可能性を提示するものです。具体的に、大学アーカイブズにおいて行われている業務・事業等について、実務における手順等を紹介し、その意義を明らかにしたいと思っております。

すなわち、研究集会「大学アーカイブズの実務」は、大学アーカイブズが行っている多様な活動を提示することによって、個性が輝く場として改めてアーカイブズを位置づけ、その形成・発展における一つの指標を形成することによって、大学アーカイブズ、ひいては日本におけるアーカイブズの充実と、その存在意義を広報することを目的としています。

本研究集会の議論を通じて、大学アーカイブズ・日本のアーカイブズの多様性と可能性を広げることができれば、幸いであると考えております。

ご多忙中のこととは存じますが、是非ともご参加いただき、大学アーカイブズ、ひいては、日本のアーカイブズの充実・発展に寄与していただけますようお願い申し上げます。